

目的) 家庭廃棄物の減量化をすすめるにあたっては、廃棄物個々の特性を把握する必要がある。家庭廃棄物を構成する素材等の物的側面から分類している研究はあるが、生活者の視点にたつものは見あたらない。本研究では、生活者の視点に基づく評価の結果から家庭廃棄物を分類し、個々の廃棄物特性について考察する。

方法) 平成6年10月から11月に、廃棄前、廃棄時の生活実感を示す10の評価項目からなる尺度を用い、首都圏の中高年主婦を対象としたアンケート調査を実施し、33種類の家庭廃棄物各々についての5段階評価を行なった。調査にあたっては、大学生を通して依頼をし、協力応諾の得られたものについて、留置法により回収した。調査票配布数は872件、回収数は、293件で、そのうち有効回答票は210件である。

結果) 中高年主婦による評価データを用いた因子分析等の結果、第1因子として「廃棄物の存在感」、第2因子として「カスケード利用の可能性と環境負荷性」、第3因子として「廃棄の容易性」を示す3つの因子が抽出された。第1因子と第2因子を軸とした座標軸上に33種類の家庭廃棄物をプロットした結果、家庭廃棄物は、①家具・布団・じゅうたん・家電製品・自転車、②廃油・電球・乾電池・スプレー缶・殺虫剤の缶、③携帯弁当容器・プラスチックボトル・紙パック・ガラス瓶・空き缶、食器、食品トレイ、④洋服・和服・セーター類・下着・靴・新聞・空き箱、⑤ゴム製品・化学ぞうきん・使い捨てカイロ・食料品、⑥スーパーの袋・OA古紙・パンティストッキング・わりばし、⑦紙おむつ、の7つのグループに分類されることなどが明らかになった。